

## 2018年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、関西学院幼稚園の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、公表いたします。

関西学院幼稚園は、子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を実践しています。そこで、2018年度の学校評価におきましても「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」「保健管理」「教育環境整備」「保護者との連携」を設定しました。評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教員にアンケート調査を行い、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員、関西学院評価情報分析室副室長による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者 91.1% (195人/214人中)、教員 100.0% (23人/23人中) となっております。

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、各評価項目で「目標」を立て、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。また、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員、関西学院評価情報分析室副室長の評価者に普段の保育を参観していただき、ありのままの本園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育を目指してまいります。

今後も一人ひとりの子どもたちが、愛されている自分を実感できるようにキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育の実践を行いたいと考えております。今後どうぞよろしくお願いたします。

2019年3月15日  
関西学院幼稚園  
園長 赤木 敏之

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

建学の精神―「幼子をキリストへ」

聖書におけるイエス・キリストによって示された教育観・子ども観をもって、キリスト教主義による教育・保育を実践している。子どもたち一人ひとは、神様に愛されている存在として、慈しみ育てることを使命としている。子どもを中心に据えた教育・保育は、127年間、一貫した流れの中で受け継がれている。

#### 教育方針

- 子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。
- お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ちあう。
- 神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらの教育方針に基づいて、教員は神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力、配慮をもって子どもたちと共に学び、成長する存在でありたいと願って保育を行う。また、遊びを中心とした保育を実践し、子どもたちの心の育ちを支え導く。

中期計画としては、以下の項目を目標とする。

- ・質の高いキリスト教保育の実践、キリスト教保育の質向上のための研究
- ・保育環境の整備・充実
- ・教員の確保と育成

### 2018年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→幼稚園の教育の根幹となるため、評価項目に選定。
- ・教育課程・指導→重要項目であり、経年変化を図るため毎年の評価項目に選定。
- ・保健管理→園児の健康管理は重要であり、経年変化を図るため、継続して評価項目に選定。
- ・教育環境整備→子どもが遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため、評価項目に選定。
- ・保護者との連携→子どもの健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため、評価項目として選定。

### 2018年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	A
目標	○教員間でキリスト教保育の理念の共通理解に努める ○園児の発達・個性を把握し、子どもたち一人ひとりが愛されていると感じられる保育をおこなう		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園は、神様から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。</li> <li>・教員は子どものあるがままを受け止め、愛情をもって関わっている。</li> <li>・教員は子どもの視点に立って物事を考え、日々の保育内容・方法を話し合っている。</li> <li>・教員は日々の保育の中で、子ども同士が互いに個性や発達の多様性を理解し、</li> </ul>		

	<p>認め合い、共に育つことができるように働きかけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員は、子どもが喜びを持って主体的に活動できるように導き、支えている。時には見守り、待つことも大切にし、子どもが充実感や達成感を味わえるようにしている。</li> <li>・ 教員は、「～ができる」「～ができない」といった結果にとらわれず、過程を大切にしている。特に、内面（意欲、葛藤、満足感など）の理解に努めている。</li> <li>・ 土曜日に行う礼拝（年間：年長組・年中組 19 回、年少組 18 回）では、聖書の話などを聴き、さんびかを歌い、献金を捧げ、祈りの時をもっている。また、平日に年長組が 3 クラス合同で年間 16 回、年中組が各クラスで年間 16 回、年少組が各クラスで年間 11 回、聖書の話などを聴く礼拝を行っている。</li> <li>・ 日頃の保育中の礼拝では、神様を通して与えられる恵みに喜びと感謝をもって祈っている。また、友達や家族など、他者を思っているの祈りも大切にしている。こうした日々の保育内容を、降園時に保護者の集まる場で伝えている。</li> <li>・ キリスト教保育について、より理解を深めてもらうために、保護者会総会、クリスマス準備保護者会を行っている。</li> <li>・ 家族で共に参加できる礼拝として、「花の日礼拝」「クリスマス礼拝」「震災を覚えての礼拝」を計画している。また、各学年、年に一度土曜日に、保護者自由参加礼拝を設けている。</li> <li>・ 毎朝、教職員で祈祷会を行い、保育に臨んでいる。毎週月曜日の朝は、関西学院院長と共に祈りの時を持っている。</li> </ul> <p><b>（取組の効果に対する評価）</b></p> <p>保護者アンケートからは、質問 1 「幼稚園はキリスト教保育の考え方を、保護者の方と共有している。（礼拝、保護者会、手紙、話等で）」に関しては、81.0%が強くそう思うと答えている。一方、あまりそう思わないと答えている保護者は、0.5%となっている。また、質問 2 「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。」の項目では、77.9%が強くそう思うと答えており、あまりそう思わないと答えた保護者は 1.5%となった。これは、幼稚園のキリスト教保育実践が概ね、保護者の理解に繋がっていると窺える。</p> <p>教員アンケートからは、質問 1、2 共に肯定的な結果が見られたものの、質問 1 「教員は、キリスト教保育の理念を共有している。」に関して強くそう思うと答えているのが 52.2%（前年比 12.8%減）、質問 2 「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。」に関しては、47.8%（前年比 27.2%減）となった。これは、今年度、努力はしたものの、理念の共有が十分にできなかったことが推測される。</p>
<p><b>今後の方策</b></p>	<p>キリスト教保育の理念については、園内研修、教師会等で共有する場を設けているが、形無く目には見えにくいものであるため、実践にそれをどう生かすかはそれぞれが模索するところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続して、園内研修、教師会での理念の共有の機会を増やす。</li> <li>・ 講師を招聘し、キリスト教保育の理解に努める。</li> <li>・ 教員間で日常的に子どもの姿や保育を振り返り、子どもを中心に据えたキリスト教保育のあり方について語り合う。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】	自己評価	A
目標	○園児が、何事においても意欲的に取り組めるように援助し、自律的な精神を養う ○環境（人的・物的）を通しての保育を実践する		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p><b>（具体的な取組の状況）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間指導計画を基に、月案、週案、日案を作成している。日案は、日々の子どもの姿を省察し作成。また、週案では一週間の保育を振り返り、一人ひとりの姿を記録し、翌週の活動計画を立案している。</li> <li>・ 教員は、教育的配慮をもって保育活動における物的環境を構成し、人的環境として子どもが主体的に遊べるように個々に応じた援助を行っている。</li> <li>・ 緑豊かで四季折々の植物や昆虫などに触れられる園庭となっている。こうした環境を生かして教員は、子どもと自然を繋ぎ、五感を使った様々な直接体験ができるようにしている。園庭環境の維持・管理のために教員は、樹木の剪定、水遣り、植物の植え替え、池の掃除や水量調節などを適宜行っている。</li> <li>・ 園庭には、サッカーなどの運動遊びができる空間、起伏のある築山、樹木を生かした遊具を配置している。その中で、様々な運動機能を使った遊びも展開されるように、教員は子どもと共に遊んでいる。</li> <li>・ 保育の質向上のため、教員は月に一度の園内研修に加えて、兵庫県私立幼稚園協会や、キリスト教保育連盟、西宮市私立幼稚園連合会、西宮市つながり事業（幼保小連携）、西宮市人権・同和教育研究集会就学前教育部会主催の研修会に参加している。また、教員自身の研究テーマに添った研修会（環境教育フォーラム）や学会（日本保育学会、日本発達心理学会、日本キリスト教教育学会、日本環境教育学会）などに参加している。</li> </ul> <p><b>（取組の効果に対する評価）</b></p> <p>保護者アンケートからは、質問3「幼稚園は、子どもたちの気持ちを大切にし、主体性を育む保育をしている。」に関しては、強くそう思うと答えたのが82.6%となり、質問4「幼稚園は、子どもたちの育ちに応じた保育プログラムを実践し、個々に添った援助を行っている。」に関しては、強くそう思うと答えたのが68.2%となった。子どもの主体性を育む保育への評価が表れていると思われる。一方、教員アンケートでは、全員が肯定的な結果であるが、質問3「幼稚園は、園児一人ひとりの興味・関心を高め、自主的・意欲的に活動できるように保育をしている。」に関しては、強くそう思うと答えたのが52.2%（前年比12.8%減）となり、質問4「幼稚園は、子どもたちの育ちに応じた保育プログラムを実践し、個々に添った援助を行っている。」は、強くそう思うと答えたのが52.2%（前年比22.8%減）となった。これは子どもの発達についての知識や理解、また、保育を展開する技量の不十分さを各々が認識している表れかと思われる。</p>		
今後の方策	<p>保育の専門性を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程の共通理解を教員間で深める。</li> <li>・ 外部からの講師を招聘し、知識や理解を深める。</li> <li>・ 教員間で日々の実践を省察し、具体的な援助の手立てを考え合う。</li> <li>・ 各自が研修会、研究会、学会への参加を積極的に行う。</li> </ul>		

<b>評価項目</b> <b>【テーマ】</b>	<b>保健管理</b> <b>【日常の健康管理、疾病予防の取組】</b>	<b>自己評価</b>	<b>B</b>
<b>目標</b>	○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防に努める ○保育者の対応できない怪我、疾病等について園医に相談して最善の対応をする		
<b>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</b>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児生活調査票（毎年度、保護者が記述）にて、園児一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握している。特に身体的・精神的特徴を持った園児（痙攣、心臓病、発達障害、アレルギーショック症状、肢体不自由等）については、全教員が会議等で定期的に成長や課題について話し合い、必要な対応・援助について共通理解している。</li> <li>・園児の健康状態については、教員が登園時に視診を行うと共に、保護者からも随時話を聞いている。</li> <li>・保育中は、園児の体調の変化に目を配り、検温、保護者に連絡等の対応をとっている。場合によっては、保健館と連携し、指示を仰いでいる。また、降園時、帰宅後も保護者と連絡をとり、園児の健康状態を把握している。</li> <li>・保育の中で「うがい、手洗い」「好き嫌いなく食事をする」「衣服による体温調節、体調管理」「歯磨き」など、考えて自主的に行えるよう、園児と共に話し合う場も持っている。</li> <li>・伝染病（インフルエンザ、流行性胃腸炎等）などで、欠席者増加の兆候が見られた際には、園医に相談の上、保護者に状況を伝えている。尚、怪我、流感、伝染病に関しては、全国、地域の状況を捉え、意識して予防に努めている。</li> <li>・特定の伝染病に罹った園児に対しては、医療機関で診断を受けた上で、保護者に登園許可証の提出を義務づけている。それ以外でも、体調面で保護者が登園の判断をしかねる場合、かかりつけ医や園医に相談した上で、受け入れを行っている。</li> <li>・園医による「ほけんだより」を配布し、疾病予防や健康的な生活の意識を持てるようにしている。最新の医療情報や医学的見地からのアドバイスが記載されている（第1回「麻しんについて」、第2回「抗生剤について」、第3回「インフルエンザの新薬について」）。</li> <li>・アレルギー対応者には、園で提供しているおやつ・食事・飲み物に関して、原材料表（産地、製造ラインを含む）を配付し、必要に応じて代替・除去等の対応を行っている。また、教員はアレルギーショック症状の緊急対処法の指導を園医より受けている。</li> <li>・教員は園医による救急法講習（AED、CPR、エピペン使用法）を受講。</li> <li>・食育に関する保護者会講演会を行った（平野直美先生「私が私になっていくことを支える食育」）。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <p>保護者アンケートでは、質問5「幼稚園は、子どもたち一人ひとりの健康状態を把握して保育をしている。」に関しては、強くそう思うと答えたのが53.8%、どちらかといえばそう思うと答えたのが42.1%、あまりそう思わないと答えたのが4.1%となった。これは、降園時や帰宅後の発熱など、体調変化の兆候を保育中に把握できなかったケースも原因の一つと考えられる。</p>		

	<p>保護者アンケート質問6「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。(園医と連携の上)」では、強くそう思うと答えたのが50.8% (前年比11.3%増)となった。この数値は決して高くはないが、前年度と比べると大きく増加している。これは伝染病罹患者の情報発信やほけんだよりの発行、保護者会講演会、体調変化時の保護者への連絡といった対応が影響しているとも推測される。しかしながら、幼稚園の取組がまだまだ十分に伝わっていない部分があり、改善の余地がある。園では伝染病罹患者の人数の増加に伴い、状況を保護者に伝えている。しかし、個人が特定されやすい場合には公表していない。それが一部の保護者の不安につながっているのではないかと推測される。</p> <p>教員アンケートでは、質問5「幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育をしている。」に関して、強くそう思うと答えたのが22.7% (前年比47.3%減)、どちらかといえばそう思うと答えたのが72.7% (前年比42.7%増)、あまりそう思わないと答えたのが4.5%となり、質問6「また、その対応については園医に相談の上、行っている。」では、強くそう思うと答えたのが69.6%、あまりそう思わないと答えたのが4.3%となった。</p> <p>この結果から以下の原因が考えられる。より細やかな保育を行う為に教員の人数は多く確保されているが、園児の健康状態を保育中に教員間で共有することが難しい。次に教員の園児の体調変化に気づく目の不十分さ、もう一点は各保護者の健康管理の判断基準が様々なことがあげられる。</p>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児の顔色、表情、体の動きなど体調変化に気づく教員の目を養う。</li> <li>・ 体調不良時の保護者への連絡を引き続き徹底する。</li> <li>・ 教員全体で、園児の心身の健康状態に関して、丁寧に話し合いを重ねる。</li> <li>・ 教員が園児と共に「健康的・衛生的な生活の向上」「病気の予防」について話し合い、意識できるようにする。</li> <li>・ 今後も各クラスや保護者会で病気の予防・対策、子どもの健康状態の目安となるものを提示し、園児が心身共に健やかに過ごせるようにする。</li> <li>・ 子どもの疾病や、健康管理に関する手紙を「ほけんだより」として定期的に発行する。また、保護者に配布している「学年だより」においても、園児の健やかな生活を促す内容を引き続き掲載する。</li> <li>・ 伝染病罹患者が出た場合の速やかな伝達を行う。</li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実】(重点)</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 法人と連携した施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う</li> <li>○ 法人と連携して子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う</li> <li>○ 保育者の教育、研究のための環境の充実を行う</li> </ul>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭の一部の土壌改良のため、土を掘り起こし、バーク堆肥を混ぜ、植物環境の充実を図っている。</li> <li>・ 池内部の生物環境をSDGs的視点(持続可能な開発17目標)を加え見直し、地域の生物多様性保全と園児にとってよりよい環境となることをめざし、池の掻い掘りと池干しを行った。</li> <li>・ 園庭権所の点検、清掃を適宜教員で行っている。</li> <li>・ 砂場(2箇所)の砂の補充を行った。</li> <li>・ 年度当初、教員で小屋・雲梯などの遊具に柿渋(天然防腐剤)を塗り、園庭の</li> </ul>		

	<p>築山部分に真砂土を補充した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭に新たに花壇を設けてハーブ数種類を植え、子どもたちの遊びの充実を図った。</li> <li>・ 園庭の樹木の移植・剪定を行い日当たりが良くなったことで、アケビやヒメリンゴ、カリンなどの実がより育った。</li> <li>・ 毎日、登園前に教員が安全確認（施設設備、遊具等の点検など）を行い、保育後、教員で保育室、デッキ、園庭等の清掃をしている。</li> <li>・ 遊具は随時、総務・施設管理課、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、修繕を行っている(丸太の壁、雲梯、ジャンプ台、ネット遊具)。</li> <li>・ 遊具が壊れ使用不可になった際、遊具を買い替え、教材が不足した場合は随時補充している。</li> <li>・ 経年劣化した大型積み木を、一部新調した。</li> <li>・ 学年ごとに教員が検討し、93冊の絵本を購入した。</li> <li>・ 月に一度、教員全員で園内研修ができるように日程を調整した。</li> <li>・ 教員が個人研究・資格取得のための環境づくりに努めた。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <p>保護者アンケートからは、質問7「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検、整備を適切に行っている。」に関しては、68.0%が強くそう思うと答えている。昨年度の方策を受け、修繕に時間を要する際、保護者への伝達が行き届くように努めた。また、質問8「幼稚園は、子どもの興味や関心・育ちに応じて遊具、教材を整えている。」に関しては、78.9%の保護者が強くそう思うと答えており、概ね保護者は肯定的に捉えていると思われる。</p> <p>教員アンケートからは、質問9「幼稚園は、保育者の教育・研究のための環境(学会、研修会への参加を含む)づくりに努めている。」に関しては、強くそう思うが47.8%(前年比17.2%減)、どちらかといえばそう思うが34.8%(前年比9.8%増)、あまりそう思わないが17.4%(前年比7.4%増)という結果が出ている。保育者の教育については、まだまだ共通理解や考えを深めるまでには至っていないと推測される。研究のための環境づくりについては、園全体として参加する研修会は確保されているが、個々に希望する研修会への参加については勤務の状況上、行き届かない部分もある。それも原因の一つではないかと考えられる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>○設備整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も引き続き法人との連携を円滑に行い、施設整備の安全、維持管理、点検、拡充を行う。木材で作られた遊具は経年劣化が伴うが、温もりがあり、本園の自然環境に溶け込むものである。これらの方針も修繕状況と共に保護者に発信し、理解を得られるようにする。</li> </ul> <p>○遊具・教材の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材研究のあり方について見直す(玩具の多様な遊び方や用い方)。</li> <li>・ 子どもの遊ぶ姿を振り返り、よりよい援助の方法を話し合う。</li> <li>・ 新たな教材の情報を収集しつつ、必要性を見極めて取り入れる。</li> </ul> <p>○保育者の教育・研究環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の研修会への参加、個人研究への取組を深めるために、情報の共有や時間確保に努める。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から保育場面を通じた具体的な話し合いを行い、相互理解に努める。さらに実践結果を検討する機会を確保し、保育の質向上をめざす（PDCAの実行）。</li> </ul>
--	---

<b>評価項目</b> <b>【テーマ】</b>	<b>保護者との連携</b> <b>【信頼関係を深め、子どもの育ちについて共に考える】（重点）</b>	<b>自己評価</b>	<b>B</b>
<b>目標</b>	○園の教育方針への理解を深め、園児の心身の健全な発達を願って、家庭との連携を図る		
<b>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</b>	<p><b>（具体的な取組の状況）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園時、保護者が子どもを送迎するので、教員と保護者が顔を合わすことができる。その際、家庭での様子を聞いたり、園での子どもの様子を伝えたりしている。時には園生活を送る上での悩みや子育て相談などを受け、話し合っている。</li> <li>・毎日登園時に、正門前のボードにてその時々の子どもの様子や、興味関心など、園生活の理解に繋がるような内容を記載している。また、降園時には保護者が集まる場で、日々の保育について担任がクラスの出来事や子どもの姿を伝えている。</li> <li>・ホームページやようちえんネット（ネットワークツール）にて、園生活の様子や伝達事項などを発信している。</li> <li>・家庭訪問（毎年度当初）、クラス懇談会（1学期）、個人懇談会（2学期、3学期）を行い、園児一人ひとりに添った援助方法や願う育ちを考え合っている。</li> <li>・学期ごとに保育参観日を設け、子どもの園生活の様子を観てもらっている。保護者会総会では、日頃の子どもの姿をビデオを通して見ていただき、園の教育方針について話をした。</li> <li>・外部から講師を招き、子育て・教育の鍵となる事柄をテーマに保護者会講演会を行った（平野直美先生「私が私になっていくことを支える食育」、加島ゆう子先生「自分にOK!!が言える子育て“いいママ”よりも“幸せママ”になろう」）。</li> <li>・園児の心身の健全な発達を願い、園と家庭との連携、保護者同士の親睦を目的とし、保護者会活動が行われている（木のパズル、コーラス、音楽、図書、手芸）。それぞれのサークルが、園児に還元できる活動を行っている。</li> <li>・昨年度に続き、今年度も手芸サークル他有志が、クリスマスページェント衣装の作成を行った。</li> </ul> <p><b>（取組の効果に対する評価）</b></p> <p>保護者アンケートからは、質問9「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもたちの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが63.6%、あまりそう思わないが4.1%となった。また、教員アンケートからは質問10「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもたちの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが52.2%（前年比27.8%減）どちらかといえばそう思うが47.8%（前年比27.8%増）となった。</p> <p>保護者アンケートからは、幼稚園との連携がとれていると感じている。しかし、教員アンケートでは、否定的な捉え方は無いものの、十分ではないという認識が高まっている。</p> <p>保護者アンケート質問10「幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、保護者と連携を図っている。（保護者会、講演会、行事等）」に関して、強くそう思うが68.7%となった。また、教員アンケート質問11「幼稚園は、子どもたちの心</p>		



	身の健全な発達を願い、保護者と連携を図っている。(保護者会、講演会、行事等)に関しては、強くそう思うと答えたのが69.6% (前年比15.4%減) となった。
今後の方策	<p>保護者との連携は、今年度の重点項目であった。保護者アンケートの数値の上昇は、教員それぞれが意識を持って取組んだ結果とも捉えられる。しかし、教員アンケートの数値からは、さらにより良い連携をめざそうとする教員の姿勢も感じられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、各教員が日々の保護者とのコミュニケーションを丁寧にとる。</li> <li>・ 子どもや保護者には多くの教員が関わる。より細やかな対応が取れるように、教師会に加えて、日頃から教員同士で話し合う機会を増やす。</li> <li>・ 昨年度に引き続き、日々の保育での子どもの姿や、行事の様子などを写真、ビデオ等を活用し、保護者に理解してもらう機会を多く設ける。</li> </ul>

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

### 総合評価

<p>昨年度の方策を受けて、今年度は特に、以下の2点が改善されたと読み取れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ キリスト教保育に対する保護者の理解</li> <li>○ 保護者への健康管理、疾病予防のための情報発信・対応</li> </ul> <p>保護者アンケート質問11「お子様は、幼稚園で過ごす事を楽しいと感じている。」に関して、強くそう思うと答えたのが84.6%となり、質問12「幼稚園の教育・保育に満足している。」に関して、80.0%であった。</p> <p>これは、日々の教員の関わりや姿勢が、幼稚園の教育の根幹である「一人ひとりの子どもが愛されていると感じられるキリスト教保育」への理解へとつながっていると考えられる。</p> <p>一方、教員アンケートに関しては、概ね肯定的な回答が得られたが、全ての項目で強くそう思うと答えた教員が減少した。教員によって、経験年数も、担っている役割も異なる。しかし、子どもを中心に据えた保育を行いたい気持ちは同じである。子どもの姿を通して具体的な話し合いを重ね、援助方法や理念の共有に努める。</p>
--

### 2018年度の評価をふまえて2019年度に予定している評価項目、テーマ等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キリスト教主義教育→教員間での理念の共有・共通理解</li> <li>・ 教育課程・指導→教育課程の共通理解、保育の専門性の向上</li> <li>・ 保健管理→健康状態の把握と教員間での連携、保護者への情報発信</li> <li>・ 教育環境整備→施設・設備の維持、教材研究、教員の教育・研究環境の充実</li> <li>・ 保護者との連携→より細やかな対応につながる教員間での連携</li> </ul>
--

### 第三者評価／学校関係者評価

- ・関西学院幼稚園の豊かな保育環境のなかで「子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育」の実践が行われていることが、保育参観をとおして実感できました。
- ・前年度の学校評価において課題となった「保健管理」「教育環境整備」「保護者との連携」の3項目については、2018年度も「B」の評価にとどまりましたが、保護者アンケートの結果では、評価数値が高くなっています。特に、質問6「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている（園医と連携の上）」では、「強くそう思う」と回答した保護者が、2016年度36.5%、2017年度39.5%、2018年度50.8%と確実に増えており、一つひとつの課題への丁寧な取組みが評価につながっていることがわかります。総合評価においても「保護者への健康管理、疾病予防のための情報配信・対応」が改善された旨が記されました。「保健管理」については、今後の方策として、さらに具体的な項目が示されましたので、来年度の取組に期待します。
- ・今年度の重点項目であった「保護者との連携」についても、具体的な取組みの成果が保護者アンケートの肯定的な回答につながっていると思われます。保護者アンケートは、91.1%という高い回収率であり、このことから幼稚園と保護者が子どもの育ちについて共に考えようとする意識の高さがうかがえます。
- ・教員アンケートについては、「全ての項目で強くそう思うと答えた教員が減少した」ことが、総合評価のなかに記されました。教員の真摯な評価姿勢の表れとも考えられます。アンケート結果は、幼稚園運営の大切な指標となると思われますので、改善策を検討し、質問9「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境（学会、研修会への参加も含む）づくりに努めている」、質問13「教員は向上心を持って幼稚園に勤めている」において、自己評価がさらに高まることが望まれます。

2018年度学校評価アンケート集計結果を2017年度と比較しますと、保護者の回答「強くそう思う」が全般的に増えたことが明らかになっています。特に、その項目は、質問1「キリスト教保育の考え方の共有」、質問6「子どもたちの健康管理」であり、この1年間で園の目標としていた園全体での取組み、および改善されたことを感じました。

保護者のアンケート結果からは、保育に対して非常に肯定的に捉えられているのに対して、今年度は教員側の結果が慎重であると見受けられます。例えば、保護者は質問2「子どもたち一人ひとりを受け止めて保育してもらっている」の回答が、「強くそう思う」約78%、「どちらかといえばそう思う」約21%と高水準であるのに対して、教師側の質問2「幼児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている」の回答では、「強くそう思う」が約48%とあり、2017年度の約75%と比較しても減少し、数値的に教員側に謙虚な姿勢を感じます。新たに入られた先生方も含め保育の専門性の向上や理念の共有と共に、保育の研鑽により自信を持っていただきたいと考えます。

先日、保育参観をさせて頂きましたが、多くの先生が子ども一人ひとりを大切にされたかわりをされておられました。また、教育環境整備の点から各教室を拝見しましたが、子どもたちの興味関心に基づいた教材や時節に応じた遊具が美しく準備され、園庭や玄関周りも気持ちよく整っていました。自己評価は若干低くされていますが、今後の方策にもありますように改善と共に教員間の情報の共有に努めていただければと考えます。

80%以上の保護者が幼稚園の保育に大いに満足し、子どもたちも幼稚園を楽しい場と強く思っておられる結果を大いに評価しながらも、今後の方策にみられる側面からさらに意義ある保育に従事されることを期待します。

### ＜キリスト教主義教育＞

- ・キリスト教主義に基づき、子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくという考えのもと、子どもの個性を理解し、子どもたちが主体的に遊び、充実感を味わえるよう保育を工夫することで、自分や人の大切さを子どもたちが実感できる取組が行われています。
- ・結果にとらわれず、過程を大切にしたい取組が、子どもたちの関心や意欲を高めています。
- ・誰に対しても親しみを持って、仲良く、優しく接する子どもたちの姿から、キリスト教主義教育の成果が伺えます。

### ＜教育課程・指導＞

- ・日々の子どもの姿をもとにした、きめ細かな教育課程が編成されています。
- ・自然豊かな園庭の環境を十分に活用し、子どもたちが日々、五感を通じて豊かな体験活動を行うことを何よりも大切にしています。
- ・個々の子どもの実態に配慮された物的、人的環境の設定が工夫されていることで、一人ひとりを大切にしたきめ細かい保育がなされていることがわかります。

### ＜保健管理＞

- ・子どもの健康状態について全教職員が共有するよう努めています。
- ・毎朝登園時に保護者と園児の健康状態、その他様々な話ができることが保健管理上非常に有効であり、登園後も、保護者と連絡を密に行うよう努めています。
- ・アレルギーについての対応や緊急時の対処法についても研修を行うと同時に体制を整えています。
- ・今後さらに「えんだより」「ほけんだより」等を活用することで保護者との連携を強めることができるものと考えます。

### ＜教育環境整備＞

- ・施設、設備については日々教諭が点検を行い、随時修理等が行われるように努めています。また、絵本等の教材の充実にも努めています。
- ・園庭の一部の土壌改良や池内部の生物環境の見直しなど、教育環境整備の取組を常に行っています。
- ・教諭は種々の研修に参加し、自身の力量を高めるよう努めています。
- ・また、園内研修の充実を図ることができるよう日程の調整なども進めています。

### ＜保護者との連携＞

- ・登降園時、家庭訪問、保育参観等の機会を通じて、保護者との連携を深めるよう努めています。また、気軽に子育て相談なども出来る関係が構築されています。
- ・「ホームページ」や「ようちえんネット」を活用して、日々の出来事などを伝えたり、緊急時の連絡を行ったりしています。
- ・保護者会講演会も積極的に行われており、保護者の意識が高まってきていることが分かります。
- ・保護者会活動とは別に、自主的な保護者のサークル活動が行われており、保護者同士の関係が深まるとともに、保護者が園に足を運ぶ機会が増えることで幼稚園理解、子ども理解につながっています。

教員アンケートでは、質問1「キリスト教保育の理念を共有している」について肯定的な回答が増加するような取組が必要であると思われます。おそらく、教員は自律的な見方から回答したものと思われるが、幼稚園の根幹であることを再度共通認識する必要があると考えます。

保護者アンケートの結果はどの項目も圧倒的に肯定的なものとなっています。職員の日常の取組が保護者に十分伝わっていることが伺われます。

豊かな自然の中で伸び伸びと活動する幼児の姿と、それを優しく見守りながら適切に指導を行う教員の姿から、幼稚園が推進しているキリスト教主義に基づく温かい保育を見ることができました。

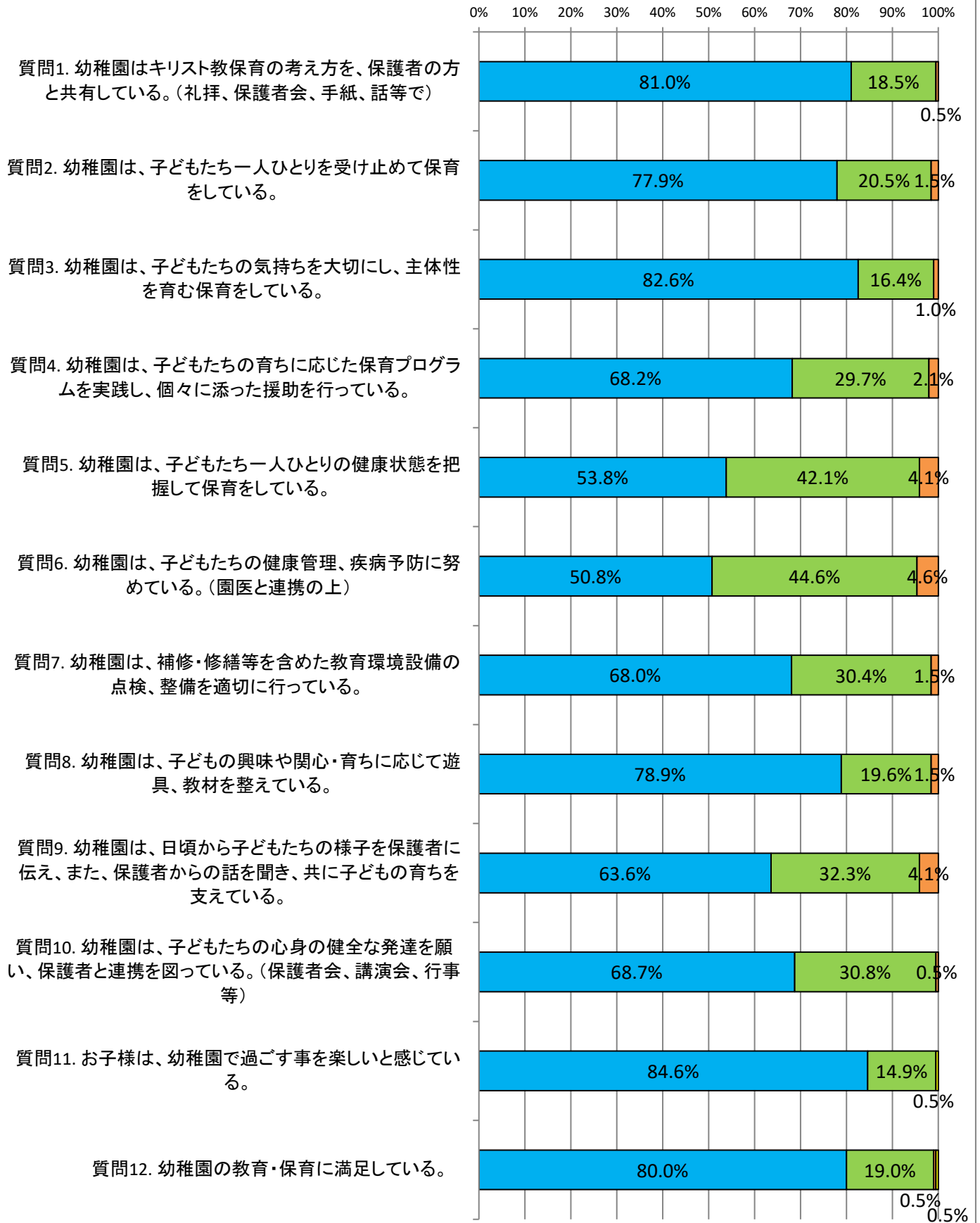
全体として妥当な評価が行われていると思います。保護者アンケート、教員アンケートの結果も概ね肯定的評価が高く表れており、キリスト教主義教育、教育課程・指導が一定の成果をあげていることが伺われます。

ただし、一点だけ気になるのは、教員アンケートの多くの項目において、「強くそう思う」の回答率が大きく低下していることです。日々の教育実践に対する教員の自己肯定感が低下しているということは、一方では、教員自身が自らの教育実践を自己満足に止まることなく、より自省的に見るようになってきているというように前向きに解釈することもできますが、何らかの理由で教員の士気が全体として低下しているという恐れもあります。若い教員の増加による経験年数の低下や雇用形態の多様化による意識のギャップの拡大など、より客観的な要因の存在も考えられます。

いずれにせよ、現状の教員アンケートからは、教員の教育実践への自己肯定感の低下の理由を解明することはできません。一人ひとりの教員に対する聞き取りなど、より緻密な調査を行うことで原因を把握し、必要な改善の手立てを講じていくことが求められているのではないのでしょうか。

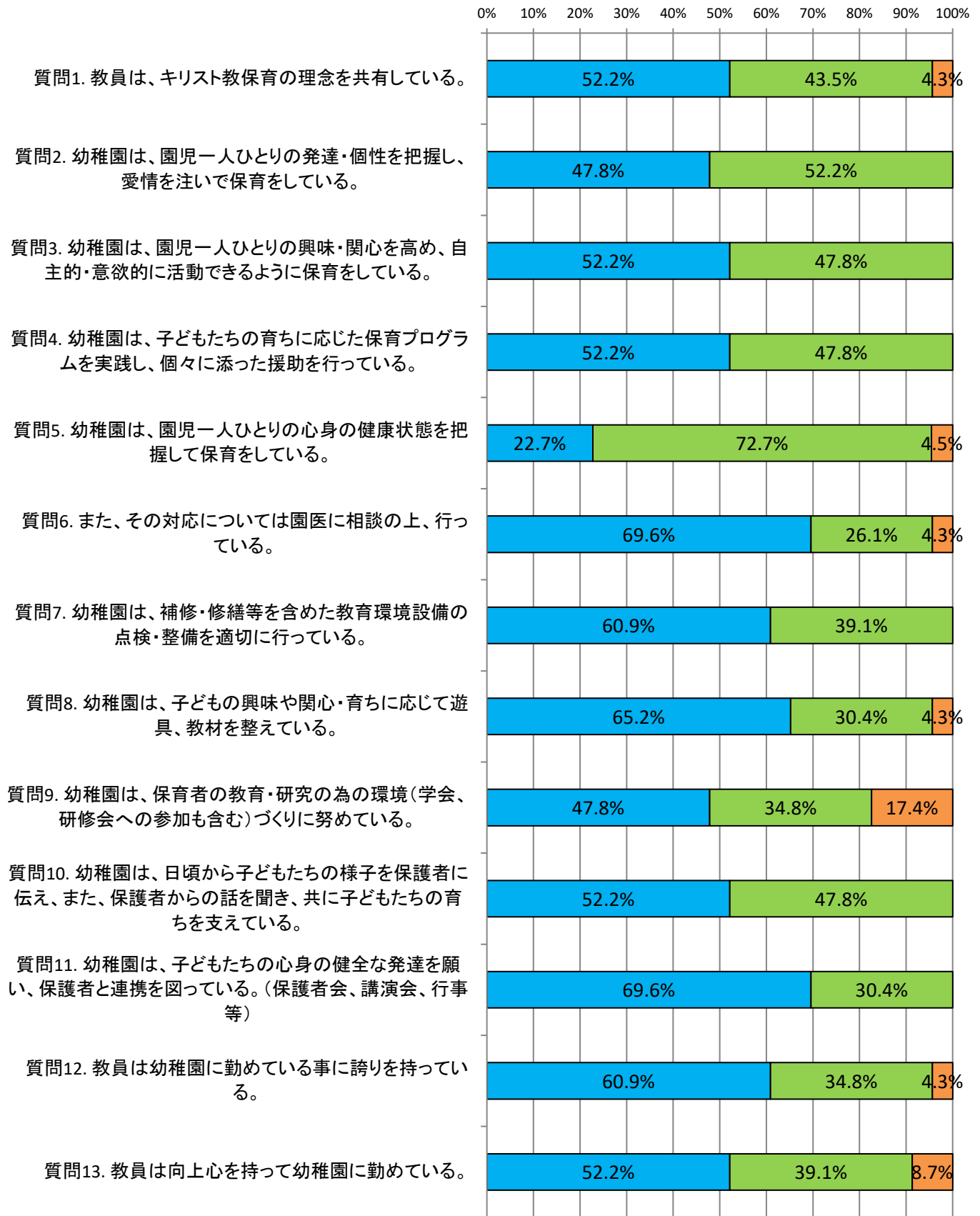
2018 年度学校評価

2018年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・保護者（回収率 91.1% 195人/214人中）



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2018年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・教員（回収率 100% 23人/23人中）



■ 回答番号1: 強くそう思う ■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない